


各位

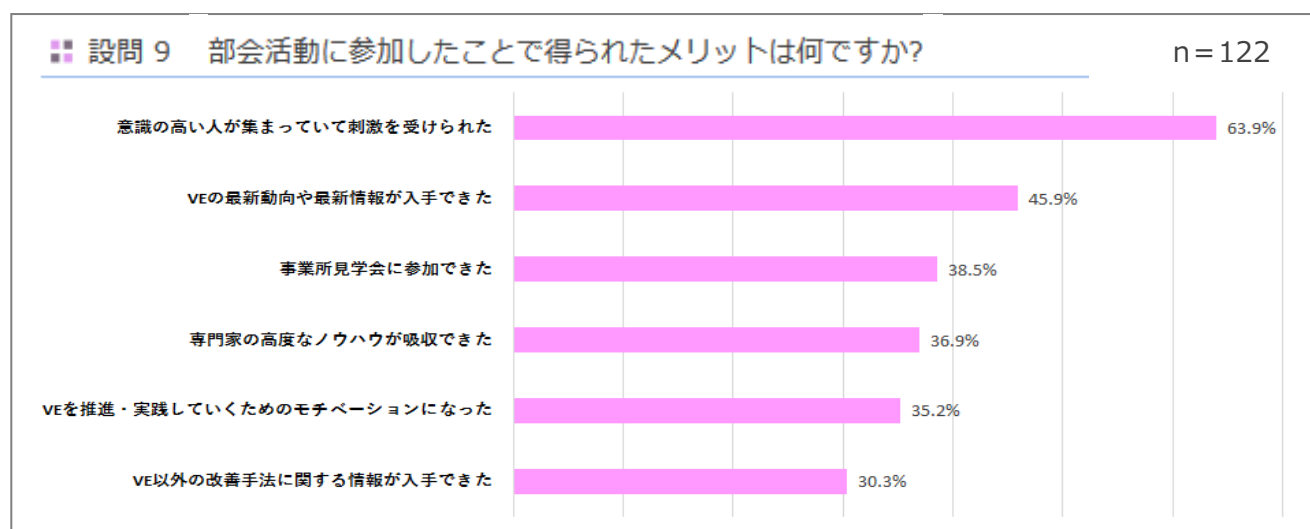

 公益社団法人 日本バリュエーション・エンジニアリング協会
 東日本支部 支部長 高橋 均

東日本支部 2019 年度部会メンバーの募集について

関東以北を主な活動エリアとする東日本支部では、事業所見学会や特別講演会などを定期的に開催しているほか、切り口が異なる6つの「部会」を編成し、実務への応用展開を目的とした研究開発を積極的に進めております。

毎年、この部会活動には150名近い方々が登録され、VE専門家による手厚い技術サポートのもと、下記のようなメリットが得られるとの高い評価をいただいております。

新年度を迎えるにあたり、2019年度（2019年4月～2020年3月）の活動メンバーの登録を広く募集いたします。この機会にいずれかの部会へのご登録をお勧めいたします。



2019年2月実施 「部会活動に関するアンケート調査」より

◆ ご登録にあたって ※ご登録は一人2部会までとなります

- ・参加型の情報交流活動につき、メンバー登録だけの申し込みはご遠慮ください。
- ・VEに関連した具体的なテーマで研究討議を行いますので、VEリーダーまたはVEリーダーと同等レベルの基本知識をお持ちの方の参加を希望いたします。
- ・正式登録前の仮登録や「お試し参加」も大歓迎です。事務局までお気軽にご相談ください。

◆ 部会活動への参加費用について

- ・会員(法人・個人)および官公庁・行政機関の方は、部会への登録をはじめ、支部が主催する事業所見学会や特別講演会、部会内の研究活動に参加するための費用はすべて無料です。
- ・上記以外の方は、お一人様30,000円(消費税別)の部会登録料を申し受けます。

◆ 登録方法と締め切り ※添付の登録申込書により、事務局宛にEメールでお申し込みください。

- ・4月中旬から下旬にかけて各部会のキックオフが予定されているため、メンバー登録の受付期間を **4月10日まで** とさせていただきます。その後も随時登録を受け付けますが、部会運営上、できるだけスタート時点からのご参加をお勧めいたします。

2019 年度 各部会の活動概要

- VEの適用範囲を広げる -

マネジメント部会

対象者: オリジナリティある新規製品&サービスの創造に関心のある方

主 査: 坪内 正克 [横河電機株式会社 マーケティング本部]

一般に資金や信用などにハンディを持つスタートアップ組織は、これまでにない独自の価値提案をすることで強力な既存プレイヤーとの直接競争にさらされない事業創造をめざします。これまでそうした新しいビジネスアイデアの発想は主に個人の体験や偶然の思いつきに依存してきました。本部会では、2018/2019年度の2年計画でそのようなビジネスアイデアをより効率的、効果的に生み出すプロセスの構築に挑戦しています。2018年度は叩き台となるプロセス案の構築と、その妥当性・実現性検討と完成度向上のための事例検証を続けてきました。2019年度もそれを継続するとともに、年度末までに方法論の確立をめざします。共に学び、研究していただける皆様の参加を期待いたします。

- ・研究テーマ : スタートアップへのVEの適用
- ・2019年度目標 : ビジネスアイデア発想プロセスの方法論化(ドキュメント化)
- ・初回会合 : 4月19日 14:00~17:00 於・日本VE協会



- VEの普及・定着と成果の拡大 -

VE推進部会

対象者: 改善活動の推進事務局、人材育成・教育研修部門の方

主 査: 大橋 守 [日立金属株式会社 技術開発本部生産技術部]

VE推進担当やコンサルの方々が、VE推進に関わる課題について、月1回2つの分科会で活動しています。他社活動事例見学として年に一度合宿研修も行っています。「VE普及推進研究会」(A分科会): 普及推進のための新たな研究テーマとして「VE推進事務局のあるべき姿」について研究していく予定です。「VE実践活用研究会」(B分科会): 「VE実践からの知恵の結集」を意識した実践に役立つ研究をしています。新たに「アイデア発想技法」に的を当て、アイデア発想技法・発想ツールの活用、アイデア発想時の工夫点などについて実践しながら研究していく予定です。両分科会とも、研究の成果は資料としてまとめ、参加各社におけるVEのさらなる普及・定着と成果の拡大に役立ててもらっています。是非、一緒にVE推進上の課題を解決していきましょう。



- 「モノ」から「コト」へ -

マーケティング部会

対象者: マーケティング全般、事業企画・商品企画に関心のある方

主 査: 神田 之裕 [株式会社リコーテクノロジーズ 経営管理本部]

本部会では約3年にわたりマーケティングにおけるターゲティング決めのプロセスの提案と実践を行い、そのプロセスの有効性や効率性を検証しています。2018年度は対象テーマを「モノ」から「コト」とし、VEの手法と思考を取り入れながらプロセスのさらなるブラッシュアップを行ってきました。また、我々の取り組んできたプロセスを整理することによって、新ビジネスの着想にも活用が期待できる感触を得ています。来年度は、今までのターゲティングプロセスからさらに範囲を広げ、新サービスの提供者、新サービスの内容などの検討を行い、新ビジネス構想のためプロセスの確立を目指します。VEを起点とした新ビジネスや新サービスの新たな発案方法を取り入れたいとお考えの方の参加をお待ちしております。



- VEの価値向上 -

R & D 部会

対象者: 新しいVE手法の創造、VEの普及・教育・実践などに携わる方

主 査: 三好 達夫 [TMバリューコンサルティング]

「簡単かつ大きな成果」VEの価値向上です。VEを簡単に！かつ大きな成果を！これからの時代に対応するため、関連手法を含め探究・研究・開発を行います。今年度は以下の2テーマを取り上げます。使用者優先！参加メンバー皆様の役に立てることが第一です。多くのご参加をお待ちしています。

1. サービス創出のプロセス研究チーム (リーダー: 斉藤)

I o TやA I技術の進展によって、全ての業界でモノからコトへと大きな変化が顕在しています。このような社会に対応し、コトであるサービス創出に焦点をあて、より大きな価値を生み出すために、サービス創出のプロセス研究に取り組んでおり、新しいVE手順の構築を目指しています。

2. 未来洞察を活用した企画VE研究チーム (リーダー: 野嶋)

事業企画、開発企画といった開発の上流(企画段階)にVEを適用し、企画の価値向上のための手順の構築を目指しています。まずは、未来洞察の勉強会から取り組み、さらにこれを発展させかつ活用することにより企画VEに展開していきたいと考えています。みなさんも一緒に研究してみませんか。



- 現場に行つて、観て、考える -

ものつくり部会

対象者: サプライチェーン全般における「ものつくり」に携わる方

主 査: 宮田 徹〔日立建機株式会社 事業戦略室〕

「ものつくり」とは単純作業での製造でなく、日本の伝統技術・文化に基づいた高度な製造であると言われています。その考え方は製造業のみならず建設業、物流、サービス業など様々な業種においても共通するものです。当部会では、様々な業種の現場に「行つて」、現地・現場・現物を「観て」、原理・原則などを「考える(学ぶ)」ことによって、最適な生産・調達のある方や改善手法・事例などをVEにとらわれることなく勉強・研究しています。ものつくりに関心・興味のある方、どうぞお気軽にご参加ください。

●活動の流れ

見学テーマと見学先の選定 - 情報収集による事前検討 - 見学 - まとめ(報告書作成)
(1テーマごとに完結)(チームデザイン)

見学テーマを予め決めて事前に関係情報を収集し、見学のポイントを予習します。見学後、見学のポイントについて意見交換を行うことで、自社のものつくり改善のヒントを得るとともに自己のスキルアップをめざします。

●2019年度の見学テーマ

- ①加工技術の進化 ②生産性向上 (IoT、AR、自動化など) ③物流VE
- ④多品種・小ロット生産 ⑤人材育成や技術の伝承、事業継続



- 事業戦略からまちづくりまで -

社会インフラ部会

対象者: 建設業やコンサルタントなど、社会インフラに携わる方

主査: 曾我 行雄〔株式会社フジタ 建設本部VE推進部〕

社会インフラに従事する方々、VE活動の導入や進め方、問題点などを気軽に検討したい方々を対象として、様々な情報交換を行いつつ、下記の(A)(B)2つの分科会活動を展開します。参加メンバーの意見に応えながら、相互の情報交換と実習や技法を勉強するとともに、社会のニーズに応えるVE活動に必要なスキルアップを図り、社会に貢献することを目的とします。

(A)「企業ケース検討会」: リーダー: IHI・薄衣

ポーター賞を受賞した企業の分析を基に、優良企業設計の手法を開発中で、マニュアル化を視野に入れ、VE手法の新しい活用方法を検討しています。

(B)「建設VE研究会」: リーダー: フジタ・曾我

社会インフラの整備やまちづくりにVE手法を適用するための方法や手法を検討し、資料を作成します。今年度は、「道の駅」や「短時間VE手法」の検討を中心に活動を進めます。



★ 部会ごとの定例会合以外にメンバー限定の特典もあります。どうぞ奮ってご参加ください。

- 1) 年数回行われる「事業所見学会」や「特別講演会」に無料で参加できます。先進的なVE活動や効率的な生産システム構築を行っている企業の取り組みを学んだり、VE関連技法や話題のテクノロジーについて知見を広げることができます。
- 2) 毎年3月に行われる「活動報告会」に無料で参加でき、講演者や他の部会に登録しているメンバーとの意見交換や情報交流がはかれます。

